

# 平成29年度 学校自己評価システムシート ( 県立浦和西高等学校 )

目指す学校像	自主自立の精神を生かして、国際社会に貢献できる人材を育成し、地域に信頼される進学校
--------	---

重点目標	1 確かで高度な学力を確立し、第一志望を実現する質の高い授業の実践 2 地域に信頼され貢献できる生徒の育成 (信頼される人間力の育成) 3 たくましく健やかな心身の育成
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	8名
	事務局(教職員)	11名

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )			実 施 日 平 成 3 0 年 2 月 1 7 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	<p>国公立大学・難関私立大学への希望者は年々増加傾向であるが、現役合格者数は平成27年度をピークに減少傾向である。より高いレベルで生徒の第一志望を実現するためには、質の高い授業の実践が必要である。</p>	<p>高い志をもって目標を設定し、最後まで諦めることなく第一志望実現に挑む生徒を育成する。生徒一人ひとりの進路希望を実現する質の高い授業を実践する。</p>	<p>1 高い志と学力の育成・第一志望の実現            ①組織的な進路指導体制の構築と取組の実践            ②進路情報の積極的な提供、進路相談や個別面談等の実施によるきめの細かい進路指導            ③大学生出張講座・講演会の開催            ④校長による全学年生徒面接            ⑤骨太リーガ-育成リベラルアーツ事業・サイエンスアカデミー事業への参加            ⑥ビブリオバトルへの参加、授業での図書館利用等を通じた読書活動の充実</p> <p>2 質の高い授業の実践            ①生徒による授業評価アンケート・シラバス・西高 CAN-DO リストを活用した PDCA に基づく授業改善            ②授業見学・県外視察・研究授業・学校間交流・研修会等による授業改善の取組の推進</p>	<p>1 高い志と学力の育成・第一志望実現の状況            ①②③④            国公立・難関私立大学現役合格者数:10%増加            ⑤事業参加生徒数:20%増加            ⑥貸出図書数:10%増加</p> <p>2 授業改善の状況            ①授業満足度率・西高 CAN-DO リスト達成度率:85%以上            ②参加教員数:10%増加</p>	<p>1 国公立大・難関私立大学への意識が高まっている。            ①②国公立大現役合格者数は12名→昨年度8名(2/1現在)。センター試験は99%(前年97%)が受験。5教科7科目受験者は38%(前年32%)、平均点も昨年比約20点増。            ③大学生出張講座として14講座実施。            ④校長による全生徒との面接実施。            ⑤骨太7事業68名参加、サイエンスアカデミー13回実施、のべ187名参加。            ⑥ビブリオバトルには、1年生全員参加。本に興味を持った生徒は増えたと思うが、貸出図書数は若干減少。            2 授業評価アンケート・西高 CAN-DO リスト・シラバス・授業相互見学・県外視察により、授業の質は向上している。            ①授業満足度82.6%・西高 CAN-DO リスト達成率73.3%と目標値を下まわった。            ②授業相互見学284回10%増の目標達成。</p>	B	<p>・「西高復活!更なる躍進」の実現に向け、進路指導部を軸とした組織的な進路指導体制の構築と、質の高い授業に取り組んでいく。            ・高大接続改革に対応するため、生徒の活動成果データの一元化に向けた、ポートフォリオの導入及び円滑な活用を推進していく。            ・新学習指導要領の施行に向けた、教育課程の編成及び授業改善に取り組んでいく。</p>	<p>・ここ数年で進学実績が向上するなど、様々な改革によって学校全体のレベルが上がってきていると感じるが、ここから更にレベルアップしていくための取組が重要である。</p>
2	<p>本校に対する地域からの信頼は高まっている。これまで以上に信頼を高めるためには、生徒・保護者・学校が一体となって、地域や社会に貢献するとともに、学校情報を積極的に発信していく必要がある。</p>	<p>情報量の維持とともに質(内容・適時性・ニーズ等)の高い情報を発信して、地域に開かれた学校づくりを推進する。自ら率先して地域との交流や社会貢献活動に取り組むことができる生徒を育成する。</p>	<p>1 本校の魅力・取組・生徒の活動の発信            ①学校通信の毎月発行・ホームページの随時更新            ②中学校訪問及び本校への訪問促進            ③学校説明会・土曜公開授業等の活用</p> <p>2 地域との交流活動・社会貢献活動の拡充            ①小学校・中学校・高校・特別支援学校等との連携した交流活動の実施            ②地域との交流活動(斜面林友の会・地元自治会等)の実施            ③社会貢献活動(ボランティア・被災地支援等)への参加促進            ④PTA・後援会行事の情報発信</p>	<p>1 情報発信の状況            ①ホームページ            ・更新:月間20回以上            ・アクセス数:50万回以上            ②来校者:10%増加            ③入試倍率:1.50倍以上</p> <p>2 社会貢献活動等の状況            ①小学校等との交流活動:            ②地域との交流活動:            ③社会貢献活動:            参加生徒数10%増加            ④PTA・後援会・地域住民参加数:10%増加</p>	<p>1 様々な情報発信の結果、多くの来校者を迎え、信頼を得ることができた。            ①更新回数381回:月平均38回。アクセス数29万件超。            ②学校説明会全7回実施、参加者は4332名昨年比10%増達成(昨年3702名)。土曜公開授業は全15回実施。            ③12月現在の進路希望状況調査で2.07倍(過去10年間で最高)を達成。            2 地域社会への貢献について、生徒の意識は高まっている。            ①②③小学校交流は、39名の生徒が参加。中学校出張授業には、教員10名参加。ボランティア・市民活動に約300名参加。10%増達成。            ④PTA・後援会行事を西高HPで案内。</p>	A	<p>・地域に信頼される西高を目指し、更なる情報発信の工夫と、開かれた学校づくりに努める。            ・県教育環境整備基金の協力を呼びかけ、グラウンド照明施設の設置を実現する。            ・地域との交流活動や社会貢献活動をより充実させていくため、PTA・後援会や西麗会との連携をより強化していく。</p>	<p>・HPの更新の頻度が多く、生徒たちの活躍や学校の様子が知ることができて良い。            ・斜面林友の会への参加生徒が増えていることや、ボランティア活動への積極的な参加など、地域活動や社会貢献活動に対し、生徒たちの高い意識が感じられ嬉しく思っている。</p>
3	<p>「自主自立」の精神の下、節度ある学校生活を送る生徒が増加してきている。今後より一層、リーダーとしての資質を向上させるためには、自らチャレンジしようとする生徒を育成する必要がある。</p>	<p>部活動や生徒会活動に積極的に参加し、学習面・生活面で自己管理する能力を持ち、自ら考え行動できる生徒を育成する。</p>	<p>1 自己管理能力の育成            ①朝学習・家庭学習の奨励・支援            ②部活動・生徒会活動・学校行事の充実            ③自己管理能力(目標・時間・生活)の育成</p> <p>2 グローバル(異文化理解)教育の推進            ①オーストラリアとの交流            ②留学生の受入、海外派遣事業への参加</p>	<p>1 自己管理能力の状況            ①授業以外の自主的学習時間(朝学習・家庭学習等):20%増            ②部活動加入率:95%以上            生徒会活動・学校行事:執行部参加生徒数10%増加            ③遅刻者数年間500回減</p> <p>2 推進の状況            ①②            海外派遣・異文化交流:            応募・参加生徒数10%増</p>	<p>1 自己管理できる生徒が確実に増加。            ①朝学習は全生徒に定着している。家庭学習については、4月当初からは増加傾向である。            ②部活動加入率は、101%(兼部含)。サッカー部が30年ぶりとなるインターハイに出場。選手権予選では準優勝。関東大会に弓道部が出場。生徒会を中心に、伝統を継承し充実した学校行事が運営されている。            ③1月末までの遅刻数は、917回と昨年度より増加傾向。(昨年837回)            2 海外での文化交流を希望する生徒が増加傾向である。            ①オーストラリア研修に20名派遣。カボリン高校から22名受入。            ②現在、スペインに1名留学中。また、イギリスから1名、アメリカから2名本校に留学中。県及び民間団体海外交流プログラムに5名参加。3月に埼玉国際サッカーフェスティバル国際交流事業として、本校に韓国チームが来校。</p>	A	<p>・『自主自立』の精神の下、「自学自習」「文武両道」を目指す。            ・生徒会本部役員への立候補者を増加させる。            ・国際社会に貢献できる人材の育成に向け、より一層グローバル教育の推進に努める。</p>	<p>・留学生を積極的に受け入れていることに関しての取組は素晴らしいと思うが、留学生との関わりという点では弱いように感じる。せつかくの機会を活かし、もっと交流を深められると良い。            ・交通マナーについては、もう少し改善してほしい。</p>

